

TMG医局憲章

— 医師の心構え —

TMG会長 中村 隆俊

1

医療は日々、専門分化を続けています。しかし、最も大切なことは「病気」を診るばかりでなく、常に「病人」を診るという意識です。小さな病変も見逃せませんが、全身状態やさらに心理面に踏み込むこともより重要です。

2

患者さまやご家族に対し、誠意のある態度で接していますか。病状説明は、相手の不安や疑問を軽減するためにも、誠意ある態度でしっかり伝えることが肝要です。それは、医師と患者さま、またそのご家族との信頼をより深めることにつながります。

3

地域の診療所の先生やほかの病院など、周辺の医療機関との連携も非常に重要です。信頼に支えられた地域医療のネットワークの確立のためには、遅滞なく、的確な返事が必要です。そのことが当院の信頼を築く基礎となります。医師会会合など日常的な研修会への積極的な参加、出席も望ましいことです。

4

院内は、常に急変時の非常態勢を整えておかなければなりません。そのためにも、医局内における日常的な医師同士の意思の疎通と確認、情報の交換等を欠かすことはできません。それを支えるのが医局内における信頼という絆です。

5

病院という医療組織を支えるのは医師ばかりではありません。院内すべての各部のスタッフとの協調、連携、信頼こそが医療機関を支える最大の力です。一部の医師の突出した言動や、思い上がった姿勢は、病院全体の信頼を損ねる結果となります。真に評価される病院とは、職員全員の資質に委ねられています。

6

あらゆる治療行為は医師のオーダーによって始動します。タイムリーで的確なオーダー、検査結果に対する適切な指示、および処置。当然、だれにも読むことのできるカルテの記載。そして、病名・注記の徹底は、返戻や査定を防止し、また収支の改善にもつながり、そこから信頼される連携が生まれます。

7

近代医療において、質の高い医療を継続的に提供するためには、健全経営は良い病院の条件の1つであることを理解し、コスト意識をもって、医療の質を確保していかなければなりません。

8

医師であることが「尊敬」の対象になったのはかつてのことです。医師に対する社会通念は大きく変わっています。医療に関する研究や考察に真摯に向かうことはいうまでもありませんが、日常のなかで良識のある態度や行動を保つことが大切です。医療すなわち信頼であることを強く自覚することです。